

やりっぱなしでは力はつかぬ

1ヶ月後の7月6日(木)から始まる「前期テストI」に向けて、学習を頑張っていると思いますが、毎日の授業は確実に自分のものになっていますか。「前期テストI」は、テスト範囲が広いので、ますます日々の学習が大切です。

みなさんは「学びてノート」で、重要語句や単語等を書いて練習をした後に、本当に書けるかどうかを確かめるための【自己テスト】をしていますか。ただ書いているだけでは、「やりっぱなし」の状態です。確かめをしないと、今日の学習は身に付いたのか、そうでないのかわからないまま勉強を終わることになります。「覚えただろう」「解けるだろう」は不確かであり、非常に危険です。今日は何ができるようになったかを実感することが大事なのです。

自動車会社のトヨタには、「トヨタ式見える化」というものがあります。簡単に言えば、「自分の課題は〇〇だろう」ではなく、課題を文字や図にすることで、目に見える状態にして克服していく方法です。学習では、なおさら解いて、丸付けをして、自分の成果や課題を目に見える状態にしていくことが大切です。

小テストでよく満点を取る人は、確かめの【自己テスト】をくりかえしています。その日その日を全力で取り組まなければなりません、今日全部できる必要はありません。できたこととできなかったことを把握して次につなげることが大切なのです。

学力をつける鍵は、確かめの【自己テスト】にあるのです。

効果的な学習例

例1 ①練習 → ②確かめ【自己テスト】 → ③できなかったことのやりなおし → ④再確かめ【再テスト】

例2 ①問題解き → ②丸付け → ③できなかった問題の理解 → 確かめ【自己テスト】

「確かめ」で学習の「見える化」を!